



山梨県立わかば支援学校

令和7年度 第3回学校運営協議会 協議結果等について

日時：令和8年2月16日（月） 13：30～15：00

場所：わかば支援学校 視聴覚室

次 第

- 1 開会のことば
- 2 校長あいさつ
- 3 議事＜議長：会長＞
 - (1) 令和7年度学校評価年度末評価について (副校長・教頭)
 - (2) 次年度の学校運営協議会開催予定について
 - 第1回 6月23日（火）
 - 第2回 10月26日（月）
 - 第3回 2月15日（月）
 - (3) その他
- 4 連絡・報告
 - (1) その他
- 5 閉会のことば

＜校長あいさつ＞

今年度からはじまり、今回で3回目の学校運営協議会になる。1年間の評価のまとめをグループに分かれて検討していただくことになる。改善につながるような意見をいただきたいと思う。学校では成績処理期間で、13時30分下校になっている。インフルエンザB型も流行しており、学級閉鎖になったクラスもある。現在も10人程度が罹患しており、予断を許さない状況が続いている。委員を継続していただく方もいれば、1年で任期を終えられる方もいる。引継ぎの場合はよろしくをお願いします。

＜議事＞

(1) 令和7年度学校評価年度末評価について

○本校・分校より報告書に沿って説明

○質疑・応答・意見

会長

・3の安心安全な学習環境の確保についてどういう所で生かしていないのか？

⇒引き渡し訓練等で事前に保護者に周知しているが、この形式が本当に有事の際に生かせるのかという意見であると思われる。

・4のICT機器の児童・生徒評価と教員評価のずれの要因は？

⇒教員がICT機器を使用して、指導にあたっている場面は多いが、児童生徒が操作することは多くはない。それが評価のずれにつながっているのではないか。

・5の働き方改革について、業務量の差という意見が挙がっているが、管理職の捉えはど

うか？

⇒情報部等が ICT 機器の関係で多忙になっている。130人も教職員がいると分掌によって差ができる。管理職は把握しているが、業務量を均等にしていけるのは今後の課題になる。
委員

・2の評価がBになっている。8割を超えているのでAで良いのではないか。4の評価も8割を超えているのでAで良いと思う。評価の基準等はあるのか？

⇒9割を超えるのであれば基本的にはA評価にしているが、明確には数字を反映させていない。先生方にも聞いて、最終的には管理職が判断している。

・2の体験的学習の実施が教職員にとって過度の負担にならないようにとあるがどのようなことで改善を目指していくのか？

⇒働き方改革として行事の精選を行っている。それぞれの学部で、どうすれば負担軽減になるか考えて話を進めている。簡単に行事はなくせない。慎重に検討を進めていきたい。

委員

・本校と分校の学校評価計画について、本校は目標と評価項目が同じになっているが、分校は異なっている。なぜ本校と分校で違うのか？

⇒本校と分校では形式が異なっている。同じにしないといけないと思っている。反省として見てわかりやすいようにしていきたい。

会長

・ICT支援員の問題はどうする？

⇒ICT支援員は自分のテリトリーしか対応することができないケースが多い。そのような状況では十分に活用することができない。県には要望を伝えていきたいと思う。

学校関係者評価について

(本校と分校とでグループにわかれ、協議。その後、全員で共有)

○本校グループ1(評価項目3・4・5)での協議内容

3 安心安全な学習環境の確保

・プライバシーを配慮して防犯カメラを設置することも必要になってくるかもしれない。熊などの動物の被害もある。下校の際に事業所の方が多く来校する。不審者が混じってもわからないので学校が用意したカード等を使って、引き渡しができると思う。災害について、避難所として活用するための訓練も必要になる。源小学校で実践事例がある。

4 個に応じた指導の提供

・「個に応じた」とは「個別に対応する」ことではないという共通認識を、教職員間、また教職員と保護者とでもつことが必要になる。先生たちは障害の程度を考えて、よく取り組んでくれていると思う。

5 教員の働き方改革の推進

・教員がよろこびやすい、楽しさが感じられるような取り組みが大事になる。

○本校グループ2(評価項目1・2・5)での協議内容

1 特別支援教育の推進

・専門性の向上が必要になる。経験不足でわからない、とか、道徳の授業について悩んでいる、という教員の意見もある。研修や校内研究の充実、県外の先進校への視察、相互授業参観の実施が必要になる。

2 系統性のある教育活動の展開

・意識化することが必要になる。管理職や学部主事が継続して、体験学習の大切さを話す。

専門性の向上ともつながってくるが、他学部の相互授業参観を実施することも必要になる。

5 教員の働き方改革の推進

・管理職の配慮に対する記述がたくさんあった。丁寧な対応していることが伺える。研究で検討したプロジェクトが実行されているのがとても良い。

○分校グループでの協議内容

1 特別支援教育の推進

・個人研究を登用する方法もある。

3 安全・安心な学習環境の充実

・分校の場合は地域的に人も少なく、不審者が現れるかもしれないから注意が必要になる。

※時間内に協議できない項目もあった。（時間設定等を次年度に生かす）

（2）次年度の学校運営協議会開催予定について

第1回 6月23日（火）

第2回 10月26日（月）

第3回 2月15日（月）

⇒承認

（3）その他

なし

※委員から一言ずつ、感想

・昨日のみなもと文化祭・敬老会で展示されたわかばの児童生徒の作品や製品がよかった。わかばの子どもや教職員が当日、見学にも来た。来年度もぜひお願いしたい。11月には寄宿舎で交流があり、ほうとうを一緒に作った。地域にとっても有意義な取り組みである。

・「専門性の向上」について、地域の小学校がわかばからの指導助言をもらっている。地域に還元されていると感じる。

・委員の活動を通して気づきがあった。当たり前だと思っていたことの改善への気づきとなった。

・来年度もぜひ、委員をやらせていただきたい。

・分校まつりでは、児童生徒の生き生きとした姿が見られた。教員の手厚い指導がすばらしかった。

・学校評価から、よい評価をもらっている学校だと感じた。

・学校評価がきめ細やかであった。

・今後も学校評価の自由記述を大切にしてほしい。意見を丁寧に挙げていた。ボトムアップ型の研究で、一人一人の意見が生かされていると感じた。

・働き方改革は、管理職の意識改革が大切だと感じた。

・委員はやりがいがあった。

・学習発表会はとても感動した。ここでの教育を感じた。

・学校卒業後の応援者を増やすことが大切だと思う。

<連絡・報告>

（1）特になし